



RIKKYO SECOND STAGE

Contents

P1 ゼミのひとこま

P2 入学式とウェルカムパーティー P2~3 本科生の横顔

P4~5 本科ゼミナール紹介

P6~7 専攻科生に聞きました・リベラルアーツの世界 ほか

P8 立教大学野球部快学・輝くRSSC/OG ほか

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発行：立教セカンドステージ大学

編集責任：加藤 睦 編集長：黒川 慶一

発行日：2017年9月19日

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

もうすぐ10周年



ゼミのひとこま

立教大学経済学部教授
立教セカンドステージ大学運営委員 黒木 龍三



やましたひでこさんの断捨離で火がついた、今求められる処分・お片づけの勇氣、年老いた両親の介護やもう考え始めても良い自分自身の老後ケアの問題、アメリカ近代史から見たトランプの位置付け、新聞の読み方から、フォークソングの歴史的研究など、我がゼミ

ではテーマが本当に多岐にわたり、私は、ゼミでの皆さんの報告をいつも楽しく聴かせてもらっています。樋口一葉の「恋」という発表もあり、その時はとても盛り上がりました。

セカンドステージ修了時に提出する論文は、とにかく今一番関心のあるテーマでまとめるのがいいと思います。私は専門が経済学（経済理論と経済思想史）なので、選ばれるテーマの内容については、ほとんど門外漢です。そんな私でも出来るかもしれない指導は、おもに、論文の形式についてでしょうか。起承転結——1. はじめに、2. 論を立て展開する、3. 視点を変えて検討・吟味する、そして、4. 結語、という具合。正、反、合ともいわれる、弁証法的構成、も考えられます。もちろん、実際に書くときには、こうした形式をあまり気にせず、思うところをどんどん書き進めるのがよいでしょう。

最後に、これからゼミで数回にわたって取り上げる予

定の、アダムスミスの『道徳感情論』に触れましょう。

『国富論』は聖書の次に読まれている、などとも言われるベストセラーですが、その基礎にもなった、人々が社会で関わりを持つときの気持ちの在り方を、「共感」をキーワードに徹底的に議論した『道徳感情論』はあまりポピュラーではありません。しかし近代以降の社会を考える上で、これほど重要な書物もないのではないかと思います。私の専門の経済にまったく興味のない人でも、ヨーロッパでいえば、中世のキリスト教的愛他主義から利己主義の是認に大きく舵をきった近代以降の社会の在り方には興味をお持ちのはずです。日本でも、お寺や神社を中心にした村落共同体は、都市近郊では完全に崩壊しています。漁村でも昔は見られた、捕ってきた魚を村人全員に分けるといふ、分配をつうじての助け合いのシステムは、もうほとんど残っていません。近代以降の、利己的な個人を中心としたわれわれの社会の有り様を、介護など社会制度の実際の仕組み、法制度、政治経済、近代文学、そして歌謡など、さまざまな角度からみんなで問い直す作業は有意義だ、と思い、レジュメの作成をつうじて論文の書き方を学ぶことも含め、輪読による議論、という学習方法を試すこともしています。

社会主義が崩壊して30年弱、資本主義も金融システムの混乱やますます広がる格差など大きな問題を抱え、さらには世界中に広がるテロなど、現代は矛盾と混乱に満ちています。セカンドステージの仲間みんなでブレインストーミングして自分の考えを整理することができれば、立教大学に来られた意義は十分あったと思います。

入学式とウェルカムパーティー

2017年度 ～辿り返し再び問う、そして新しい友～



入学式

4月1日(土)池袋キャンパスのチャペルに於いて、吉岡知哉学長の訓辞、先生方の祝辞を受け、立教セカンドステージ大学本科生91名、専攻科生53名の入学式が厳かに行われました。パイプオルガンの音色に背筋を正され、新生活への期待に心を躍らせた。

<入学式次第>	
入序	聖書317番 一同
堂	チャプレン 中川 英樹
禱	学長 吉岡 知哉
辞	学長 吉岡 知哉
介	チャプレン 宮崎 光
書	「建学の精神」
奨	チャプレン長 五十嵐 正司
励	Dolcezza Percy Whitlock
アンセム	(1903-1946) 作曲
祝	チャプレン長 五十嵐 正司
校	一同
退	聖歌333番 一同

4月20日(木)、初々しい(?)本科生を、教職員・専攻科生の皆さんが迎えてくださったウェルカムパーティー！イブニングパーティーに相応しく飾り付けられた第一食堂で開かれました。この企画のおかげで、皆さんの距離が一気に縮まりました。



ウェルカムパーティー

本科生の横顔

2017年10期生になりました

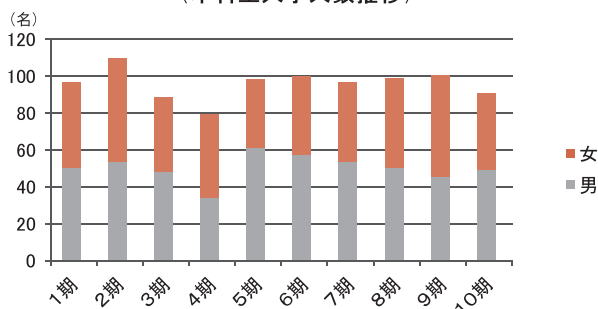
6月に実施したアンケートは、在籍者91名のうち90名にご回答いただきました。

ご協力ありがとうございました。

平均 63歳

<男性 64歳> <女性 61歳>

<本科生入学人数推移>



いちばん多い

- ・受講科目数：8科目
- ・年齢分布：60～64歳
- ・居住地：東京都
- ・通学日数：4日/週
- ・通学時間：30分～1時間
- ・知ったのは：新聞
- ・入学の動機：教養・生涯学習
- ・修了後の予定：未定
- ・趣味・得意分野：旅行・読書

No.1は

最年長：79歳
最年少：51歳

仕事、ボランティア活動はしている??

仕事(自営業含む)：25名

ボランティア活動：25名

(複数回答可)

※仕事の方は週1～3日、ボランティア活動の方は週1日の方が多くいます。

RSSC本科生と専攻科生のあんなこと、こんなことを比較してみました

本科生と専攻科生の比較

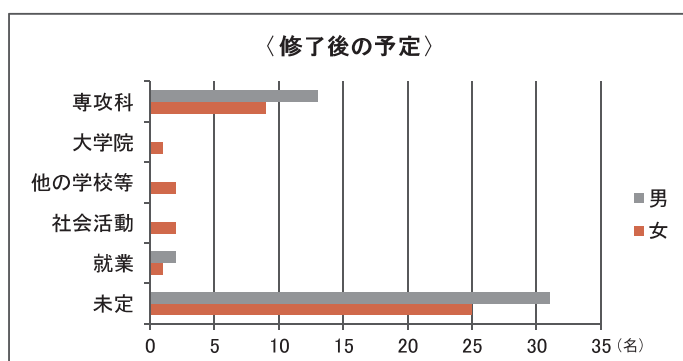
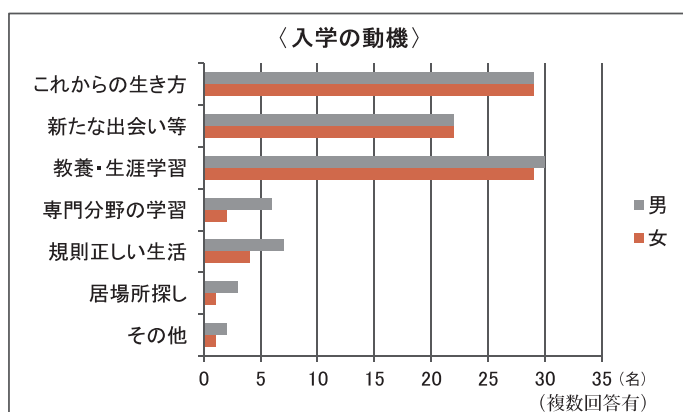
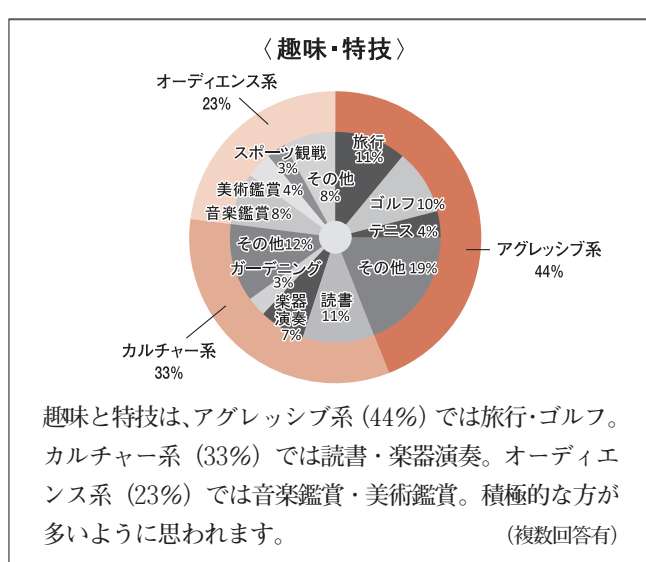
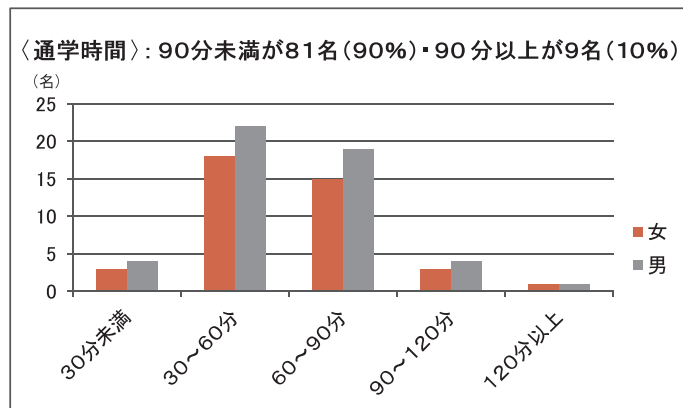
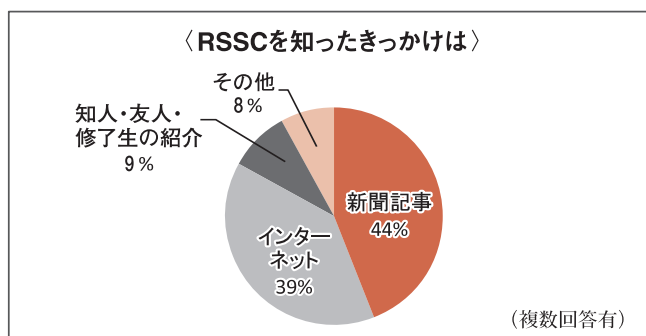
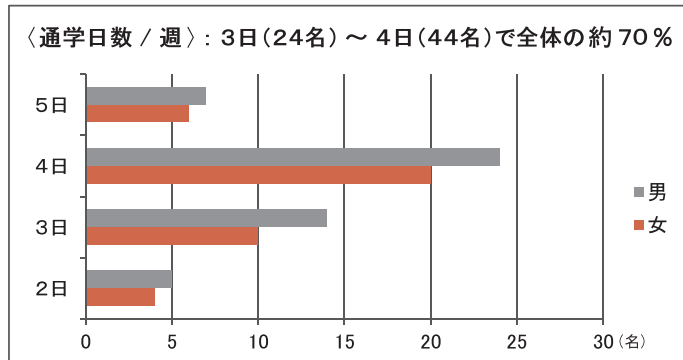
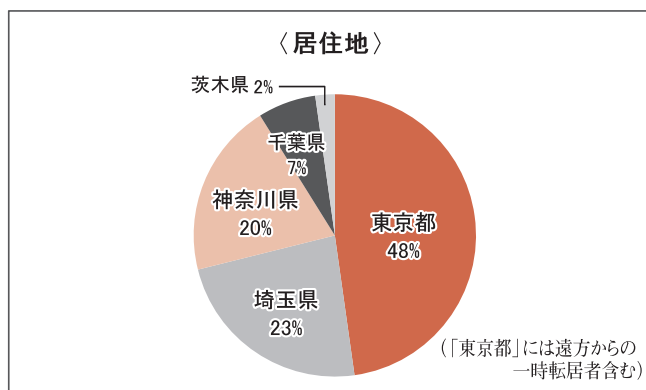
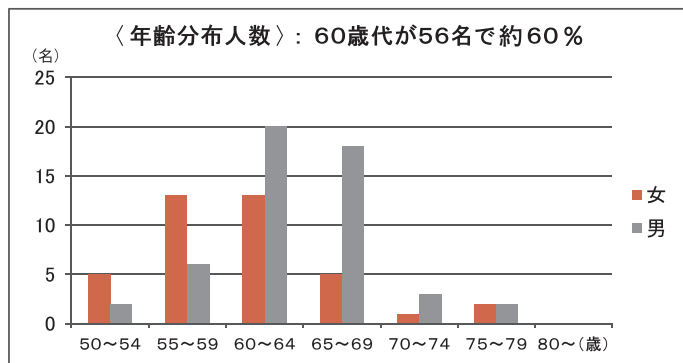
	本科生	専攻科生
在校者数	91名(男50・女41)	53名(男24・女29)
平均年齢	63歳(男64・女61)	64歳(男66・女62)
全学共通1科目	21名	16名
全学共通2科目	20名	14名

RSSCの受講生は、RSSC選択科目の他に、立教大学学部生を対象に開講される全学共通科目を一定の条件で各学期2科目まで履修することができます。何名が全学共通科目を受講しているのでしょうか。

春学期受講科目数

(名)

科目数	本科生 (RSSC 科目のみ)	本科生 (全学共通 科目含む)	専攻科生 (RSSC 科目のみ)	専攻科生 (全学共通 科目含む)
2	—	—	1	—
3	—	—	1	1
4	—	—	2	2
5	4	2	11	4
6	17	5	14	10
7	17	16	9	11
8	29	28	8	10
9	13	15	2	7
10	11	25	5	8



＜自由意見(抜粋・要約)＞

- ・図書館が立派で蔵書も多い。
- ・今まで知らなかった分野の知識を得ることができた。
- ・歴史を感じるレンガ造りの校舎と、図書館が素晴らしい。
- ・明るい若い学生さんから刺激を受けるキャンパスライフで、若返った感じがする。
- ・学問の世界の深みを知り、これからの人生の貴重な経験。
- ・授業を新鮮な気持ちで聴くことができ、働いていた頃のない充実感がある。
- ・講義を受けて知識が深くなった。
- ・パソコンが苦手なので、苦労している。
- ・色々な人達と知りあえ、一緒に学び、語り合える。

本科ゼミ

RSSCの大きな特徴のひとつに、全員が必ず参加するゼミナールがあります。本年も8つのゼミが設けられ、経験豊富な教員による指導のもと開かれる本ゼミと、受講生の多彩な社会経験や個性を活かして運営する自主ゼミとがあり、主体的な学びを深める場となっています。

黒木ゼミ お互いの個性を尊重！



経済学をご専門とされる黒木先生率いる「黒木ゼミ」は、男性6名、女性5名のメンバーで構成されています。年齢、経歴、興味が全く異なる、個性あふれる

ゼミ集団です。ゼミは、主に自主ゼミで行われ、「毎回2人が自分の興味、関心のあることを発表し、そのあとでそれぞれの発表に対して質疑応答する」という形式で行われます。そして、最後に黒木先生の講評もあります。これまでの発表では、「アメリカ民衆の歌」、「断捨離」、「余暇時間の充実」、「新聞の読み方」、「トランプ大統領」、「ドイツの中小企業」などがあり、本当に各人様々です。しかし、学びについての熱意は全員が共通に持っており、熱気あふれる議論が繰り広げられています。毎回、予定の時間を超えてしまい、司会泣かせのゼミでもあります。

今後も、各ゼミ員の個性を尊重しつつ、お互いの知的好奇心を刺激しあうゼミにしていきたいと全員が思っています。

加藤ゼミ 情熱に突き動かされた学びの縁を活かして

和歌を中心とした古典文学を専門とされる加藤睦先生は体育会長でもあります。悲願の野球部優勝祝賀パレードでは、オープンカーに乗って満面の笑みを湛えていらっしゃいました。そんな先生の周りに縁あって机を並べることになったゼミ生は12名（女性6名、男性6名、50～70歳代）。世代もこれまで歩んできたキャリアも考え方も様々な仲間達です。毎時間修了論文のテーマを発表して、それを元にパッションに満ちあふれた議論を繰り広げています。各人の学修研究意欲は旺盛で、実経験に裏打ちされた問題意識に充ちています。お酒好きでもある先生を囲んだ懇親会では談論風発、親睦を深めています。幅が広く奥も深い個性



派の集合である私達は、先生も交えながら、スリリングなディスカッションを通じて新たな人生のステージへの夢を紡いでいくのです。

鈴木ゼミ オンとオフ



総勢12名の鈴木ゼミがスタートし、当初はぎこちなかった人間関係も打ち解け、お互いの人となり解り始め、冗談が言い合える仲にまで

なってきました。

鈴木先生はご専門の知識のみならず、直近の話題、トレンド、芸能にも造詣が深く、私たちに多くの刺激を与えてくださいます。TVドラマ、AKB48、はたまた漫画に至るまで話題は尽きません。しかしいつもにこやかな顔の裏側には、教員の職業病(?)とも言える、厳しい指導に基づく目が潜んでいることを私たちゼミ生は見逃しません。修了論文への指導は、内容はもちろんのこと、その表現形式にも、より本物志向を目指すよう熱意がこもり、そのパッションから発する衝撃波が私たちゼミ生に伝播しています。

毎回のゼミは程良い緊張感と向上心のせめぎ合いの中で粛々と進行していますが、月に一度は全員参加の懇親会を行い、楽しいひと時も同時進行し、オンとオフを切り替えながら皆、獅子奮迅の働きを目指しています。

高橋ゼミ 「自由な市民」への道筋

高橋先生はドイツ文学者・教養論者で、私たちに「教養する」を伝授し「自由な市民」への道を示されようとしています。メンバー（男性6名、女性5名、50代から70代と幅広く、個性豊かに輝いています）は、慣れないゼミの成り行きに戸惑いつつ、ファーストステージから解き放たれて新たな価値観を生み出そうと、頭の中に嵐を起こさるべく（ブレンストーミング）、各々テーマを見つけ、思うところを語り合っています。

あとに控えているのは、メンバーそれぞれの興味の接点探しです。その接点から俯瞰してそれぞれの興味領域を、視野を広げて観ていくことになり



ます。これからどうなるか、みんなの「教養する」力量が試されます。ゼミの硬い話も、飲み会になれば一変します。人のいいおじさんおばさんに変身。出身地のこと、学生の頃のこと、得意なこと、家族のことなどを語り合い楽しく盛り上がっています。目指すのは、明るく「自由な市民」です。

ナール紹介

受講生は各自、関心のあるテーマを決めて、約10ヵ月間調査研究を重ね、教員や仲間たちから様々なアドバイスをもらい、その成果を修了論文としてまとめて提出します。RSSC10年目を迎えた今年も、魅力溢れるゼミが展開され、熱い学びと語り合いの日々を過ごしています。

平賀ゼミ

Brightly, Happily, Cheerfully



我ら平賀ゼミは、男性6名、女性6名、総勢12名の50歳から70歳代の幅広い世代が集う、「明るく、楽しく、元気よく」の“モットー”通りのゼミです。著名な言語学者、平賀正子先生の指導のもと、金

融、総合商社、大学、自動車、重電、医療、主婦等、さまざまなキャリアと個性をもった仲間が集まりスタートしました。ゼミでは平賀先生の指導で、修了論文について、テーマの絞り方、データ収集方法、文献の整理術など準備を始めたところですが、先生から「まだ慌てなくても大丈夫よ」とお聞きし一同ひと安心。自主ゼミでは、お互いが知り合うゼミのテーマを目標に、全員で“趣味、特技、専門分野”について自由な発表会をスタートしました。“コーヒー学入門～豆を求めて世界を駆け巡る”“ナースの一日”“折り紙”“かな書道”など…、楽しい話題でいっぱいです。ゼミ終了後は素晴らしい仲間と、毎回受講科目の話題などお酒を飲みながら親睦を深めています。

上田(信)ゼミ

上田(信)ゼミでホップ、ステップ、ジャンプ



「よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし」(方丈記)を引用され、歴史の中で「ヒト」(個人)と「ヒト」

との繋がりを重視される歴史ご専門の先生のもとに、人生経験豊富な12名(男性7名、女性5名)が「何かの縁」で集まりました。

先生は、細身に黒縁の眼鏡が歴史家風ですが、どこか中国風の着こなしでゼミに来られます。仕事を離れた我々よりはるかに「リベラル」風な趣を羨望しながら、ソフトな語りとともにアットホームな雰囲気です。上田信ゼミは進みます。ゼミでは修了論文の議論はまだ先の話です。しばらくは、テーマ探しに幅広く見聞を高めていきます。少し心配ですが「ホップ」「ステップ」と徐々に力を蓄え、最後に「ジャンプ」で仕上げる目論見です。「何かの縁」で一緒になった先生と仲間のこの機会が、人生という歴史の流れの一コマとなるように大事に過ごしていきたいと思います。

北山ゼミ

チーム北山

我々のゼミを率いる北山晴一先生は仏文科出身ですが、社会史がご専門。19～20世紀のフランス社会を研究する中で社会組織論の重要性に注目し、2002年には立教大学大学院に21世紀社会デザイン研究科を立ち上げた先生でいらっしゃいます。そこに集う北山ゼミ生は経歴も年齢も異なる男性6名、女性5名、計11名で構成されています。修了論文のテーマが決定した方、熟慮中の方など様々ですが、ゼミ生同志は次第に気心も分かり合えて来て、先生の厳しくも温かいご指導のもと、1月には全員修了論文の提出が出来る様一致協力しようと話をしています。これまでは池袋駅周辺の居酒屋でのディスカッションに力を入れて来ましたが、これからは論文作成の実行に全力投球をしたいと思います。そして年末には阪神タイガースファンでもある北



山先生と一緒に「阪神優勝祝賀」と「全員の修了論文提出」を祝って盃を挙げられる日を楽しみにしている北山ゼミ生達です。

千石ゼミ

我々千石アカデミアに入門す



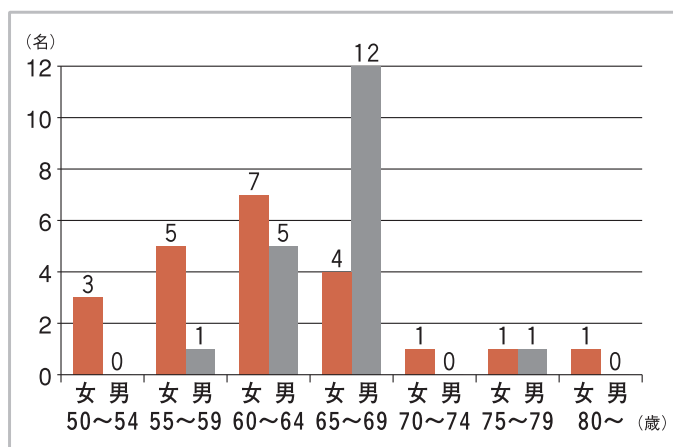
第1回目のゼミの初めに、アメリカ文学がご専門の千石先生から「皆さんの修了論文作成の為にテーマに沿った原典をしっかりと取材する必要がある。アカデミアの世界を知り、修了論文の中に確固とした執筆者の思考が存在しなくてはならない」という趣旨のお話がありました。

先生の発言により我々学友(女性4名、男性6名、平均62才)は、やや錆びかけた脳をしっかりとブラッシュアップしなくてはとの思いを強く持ちました。毎回のゼミでの小講義と論文指導はユーモアを交えながらも、アカデミアの世界へ誘われ、更にディープな議論が交わされています。先日は先生の提案で、千葉のDIC川村記念美術館に行きました。事前にアメリカ現代美術の旗手、マーク・ロスコーなどの作品の概要、美術的意義、そして楽しみ方の講義を受けました。美術だけでなく演劇等への造詣も深く、この一年、我々はアカデミアの深遠な世界にどっぷりと浸っていけそうです。幸せです。

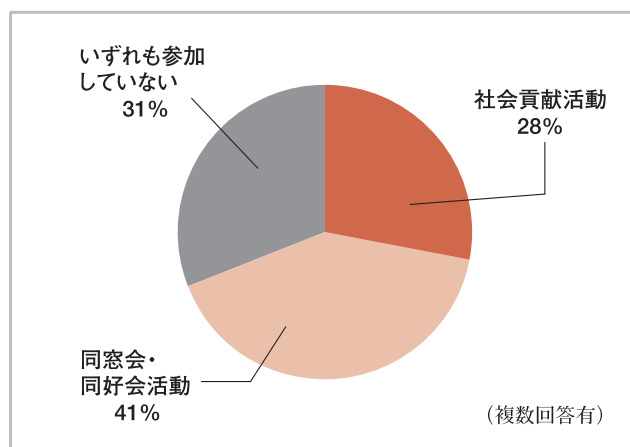
専攻科生に聞きました (6月アンケート実施、在籍者53名のうち41名にご回答いただきました)

本科修了後に1年用意されている専攻科に、本年度は53名の方が進学しました。アンケートにより専攻科進学の実動機、進学を決めた時期をはじめ、本科生へのアドバイスをいただきました。

◆年齢分布 (回答全体41名、男性20名、女性21名)



◆社会貢献、同窓会・同好会活動への参加



1. 専攻科に進んだ理由

学びの延長 35%	仲間との交流 24%	ゼミへの新たな期待 13%	その他 28%
--------------	---------------	------------------	------------

その他:「時間がある」「社会貢献」「さらなる研究活動」
※キーワードは「学び」と「仲間」ですね。

2. 進学を決めた時期

(複数回答有)

秋学期 53%	専攻科出願直前 25%	本学入学前 15%	春学期 7%
------------	----------------	--------------	-----------

※専攻科進学を決めた時期は、圧倒的に秋以降という結果 (78%) になっています。

3. 進学後の感想

(複数回答有)

仲間との時間が楽しい 29%	さらに学ぶことの喜び 26%	とにかく充実感がある 16%	その他 29%
-------------------	-------------------	-------------------	------------

その他:「時間を大切に使える」「若人に取り囲まれた環境がよい」

4. RSSCで気に入っている点

(複数回答有)

図書館等の設備 27%	先生や仲間との交流 27%	環境 19%	その他 27%
----------------	------------------	-----------	------------

その他:「全学共通科目」「研究会活動」等

5. 修了後の予定

(名)

予定	男	女	計
生涯学習	10	7	17
地域活動	8	4	12
社会貢献活動	3	8	11
大学院・大学学部	3	2	5
就職	2	2	4
同窓会活動	1	1	2
その他・未定	6	8	14

(複数回答有)

6. 本科生へのアドバイス (抜粋・要約)

- ▶ RSSC内外問わず、少しでも興味関心の向いた活動には、どんどん飛び込んでみるのがよいと思います。どこに素晴らしい出会いや今後の生き方のヒントがあるか、飛び込んでみないと分かりません。
- ▶ 図書館が充実しているので、いっぱい本を読んで下さい。特に授業に関連する本を読むと、より授業の理解が深まります。
- ▶ 1年の経験から、ゼミや研究活動に積極的に参加して、コミュニケーションをとって行くと、新たな気づきや発見があります。
- ▶ 修了論文については、関心を持続けることが出来る内容にした方がよいです。
- ▶ RSSCはたとえ1年でも先生や仲間との交流はいつまでも続けられます。本科にいる間に積極的にネットワークを広げて、修了後にも継続する人間関係を築いて下さい。

リベラルアーツの世界に「リベラルハーツ」で触れる

「食と健康の科学」

松山伸一先生

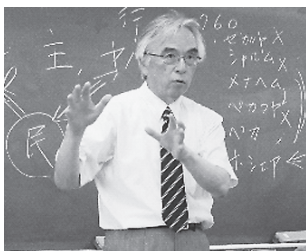
「今日は今までの常識を覆すどんな情報をゲットできるのだろうか?」と、毎回ワクワクしながら出席しています。松山先生が表情一つ変えずにサラリと話される「食と健康」にまつわる情報は、90分講義の中で何度も感動と笑いを巻き起こします。「肉・魚・卵を食べてタンパク質を摂り、足腰の筋肉を鍛え、おやつにはナッツ類を」との教えは、おまじないの如く定着しました。溢れ出る質問に丁寧にご回答くださり、食と健康を科学の視点で捉え、「常識をリセットし自分に必要なものを取捨選択せよ」と、教えてくださいます。毎回の講義録は食と健康に関する貴重な情報の宝庫です。



「古典として読む旧約聖書」

月本昭男先生

聖書学の碩学、月本先生が担当。しかもご専門の「旧約聖書」講座、と聞いただけで堅苦しい講義を想像されるだろうが、内容は至って平易。聖書が初めての受講生にもかみくだいて分かりやすく説明され、しかも奥が深い。毎回聖書の一節の朗読と、その背景や関連するエピソードまで、話題は多岐にわたる。学内の路傍でご自身が摘んだ、十字架を連想させる黄白色の華やかな花「どくだみ」の話から、専攻の旧約聖書学に基づく聖句の「私訳」の解説・解き明かしまで、その優しい語り口で飽きさせない。先生が社会的弱者に温かいまなざしを注ぐ「落穂拾い」(旧約『ルツ記』)の話が心に響く。



「最後まで自分らしく」

小谷みどり先生

本講義は、「死」を医学・哲学・社会学など多角的な観点から、「残された時間をどう生きるか」を考える講義です。受講生には、年齢的に全員身近な問題ですが、暗くなりがちな話題を元気一杯の小谷先生が明るく楽しいトークで講義を進めています。また、納棺師を講師に実演を見たり、お寺へ見学に行き最新のお墓事情を学んだり、興味が尽きません。最近、TV番組で講義の取材がありました。社会・メディアが深く関心を持つ話題のテーマです。小谷先生の人への尊厳と深い愛情を持って語られる講義に、受講生全員が、毎回、真剣な眼差しを向けて学んでいます。



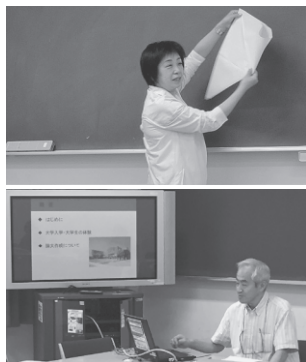
「世界・日本経済図説を読む」

田谷禎三先生

講師は、IMF・大和総研・日銀等、様々な立場から、世界や日本の経済の考察を続けてこられた田谷禎三先生です。講義は、岩波新書の「世界経済図説」「日本経済図説」の各章を先生が、毎週アップデートし、ご経験を踏まえながら、解説する形式で進められます。受講生は、各章について、各自関心のある経済事象を図表としてレポートにまとめて毎週提出します。加えて、最終講義では、受講生各自が、世界経済や日本経済について、図表を用いてプレゼンを行います。現下の世界や日本経済を鳥瞰し、学び直す講義です。



折り紙名人と学びの達人(平賀ゼミ)



平賀ゼミの矢花敦子さんは、折り紙の名人です。折り紙の知識や技に敬服しつつ、先日も矢花さんの指導のもと、ゼミのメンバーで鶴を折り、指先を使うことで脳にしっかりと刺激を与えてもらいました。

落合勉さんは、早期退職して立教大学・同大学院で心理学を学んでこられた勉強家です。RSSCにステージを移しても、落合さんの「学び」に終わりはありません。

ゼミ仲間の趣味と経験の広場

RSSCのチェリスト(鈴木ゼミ)

鈴木ゼミの市田裕さんから、ご趣味のチェロへの熱い思いを語っていただきました。

「10年ほど前にサイレントチェロが発売され、発売を記念して全国のユーザー向けにモニター募集の広告がありました。元々チェロに興味があったので、応募理由のエッセイを夜も寝ないで昼寝して書き上げたところ、めでたく合格当選し、高価な楽器をいただきましたのがきっかけです。独学ではおよそ習得不可能なので、池袋にある楽器店のチェロ教室に通い始め現在に至っています。写真は素敵な先生との二重奏です。」



立教大学野球部快挙！東京六大学リーグ戦 35季ぶり 13回目優勝 全日本大学野球選手権大会 59年ぶり 4回目優勝

5月20日からの東京六大学野球春季リーグ戦第7週の明大戦で勝ち点をあげ、優勝に王手をかけ、最終週の早慶戦第2戦で、早大が慶大に勝利したことで、立教大の21世紀初、平成11年秋季リーグ以来、13回目の優勝旗を手にしました。

続く、第66回全日本大学野球選手権大会で、接戦を勝ち上がった決勝では、立教大の黄金時代を築いた長嶋茂雄氏が見守るなか、国際武道大に大差で勝利し、59年ぶり、4回目の優勝を勝ち取りました。

これを受けて、6月12日夕刻、選手、学生、OB、OGは勿論、地元や関係者の方々も加わり、池袋界隈が一体となって優勝祝賀パレードに沸きました。RSSC副学長で立教大学体育会長の加藤睦先生(写真手前)と野球部長前田一男先生(写真右後)は、晴れやかな笑顔で、祝ってくださる皆さんに、オープンカーから手を振って応えていました。



【野球部長 前田一男先生からの言葉】

RSSC創設10年目、その佳き年に、野球部の優勝が重なったことは、何とも嬉しい限りです。

厳しい真剣勝負を繰り返すなかで、若者の力は、うらやましいほどに、輝いていきました。

部員一人ひとりの存在が、チームの一体感に高まり、そして逆転勝利の歓喜を運んでくれました。神宮という大舞台、そのなかで自分事のように応援してくださるスタンドの声援を背にして、勝利のために戦う全身全霊のプレーは、観るものに感動と勇気を与え続けました。

優勝の要因はいろいろあるのですが、とにかく野球の神様に微笑んでもらった部員たちの努力と精進とを称賛していただき、久方の優勝の喜びを立教人として存分に分かち合えればと思っています。

輝くRSSC OG 堀本恵子さんを訪ねて



How nice! 輝くRSSC OG、6期生の堀本恵子さんのKATEサロンに編集委員がお伺いしました。

サロンに入った瞬間、心地よい色合いと調和ある空間が目に入り、不思議と心が落ち着きました。

「みんな、もっと素敵になれるのに」と、サロンを立ち上げ、「シニアのお洒落講座」、「絵手紙講座」を主催し、地元小学生の学習支援の会を推進する一方、RSSC修了生や現役生が進めるNPO法人や同好会にもサロンを提供するなど、RSSC社会貢献活動の大きな支えとなっております。

そんな堀本さんから、本科生、専攻科生に、「絆を大切にして」、「シニアの人付き合いは気持ちに余裕を持って」、そしてRSSCで「培った人間関係こそ宝」とのお言葉をいただきました。

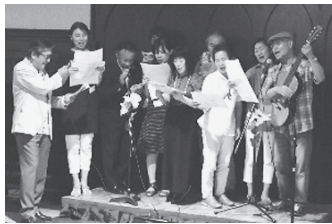
堀本さんはシニアの「お洒落のスタイリスト」だけではなく、「生き方のスタイリスト」でもありますね。



2017年アーリーサマーパーティー開催

恒例となったアーリーサマーパーティーが、6月29日(木)夕刻、第一食堂で開催されました。

本科と専攻科に学ぶ100名を超える若き(?)学生が、先生方や事務室の皆さんと集いました。本科の黒木ゼミやウタテラスの会によるコーラスを初め、ピアノ演奏など、隠れた才能が披露されるなか、先生方も負けじと歌を披露され、芽生え始めた親近感を一層深める時間となりました。



編集後記

ご縁があって出会った編集委員9名。メンバーのほとんどが雑誌編集は未経験でしたが、何とか頑張って、Newsletter19号を仕上げました。立教大学野球部の大活躍にも背中を押されているような気持ちでした。編集にご協力いただいた皆様には、厚く御礼申し上げます。



前列左から新井佳澄 土居和美(副)
佐藤純子(副) 黒川慶一(編集長)
後列左から鈴木千晶 今井敏晴
村田友啓 倉持貞雄 河合芳樹